

1. 体の発育・発達 1年組 番号前 ()

1年生の最初の授業では、体の発育・発達について学習していきます。

発育と発達 似たような言葉ですよね？ まずはこの違いをおさえましょう。

◎教科書6ページをよーく読んで、() に当てはまる言葉を書き入れ、
2つの言葉の違いについてまとめましょう。

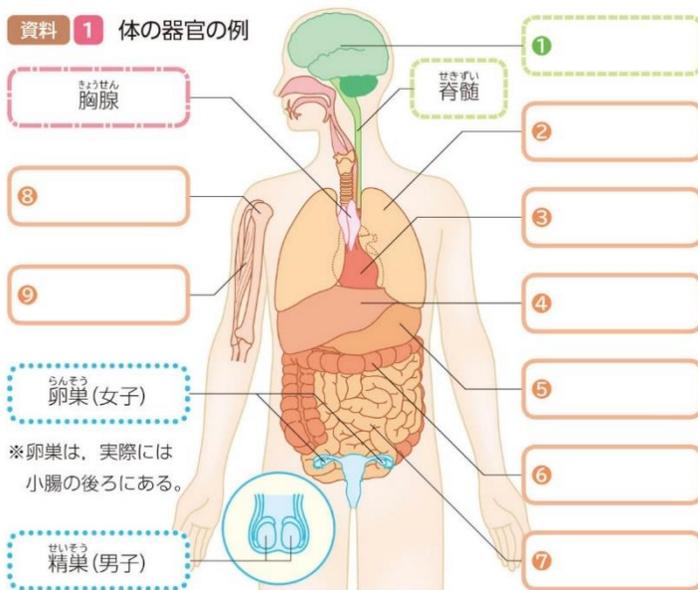
発育：器官の () や () が増すこと。

発達：器官の () が高まること。

⇒ つまり、『発育』は身長が高くなったり、体重が重くなったりすることです。

『発達』は歩くようになったり、話せるようになったりすることをいいます。

☆やってみよう 小学生を振り返って、まずはそれぞれの器官の名称を書き入れましょう。

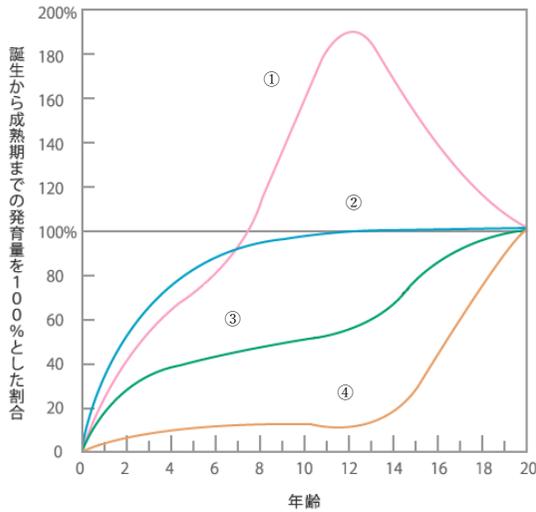


難しい人は、教科書の
1番後ろのページを開
いてみよう

このように人間の体には様々な器官がありますが、全て同じように発育・発達するわけではありません。それぞれ適したタイミングで発育・発達し、成人（大人）の体になっていきます。

⇒ では、どんなタイミングでどのように発育・発達するか学習しましょう

☆やってみよう② 発育・発達の方法によって、各器官を4つに分類できます。
教科書P7 資料2を参考に、表を完成させよう。



分類	特徴	器官
① ()型	小学校高学年から中学校の頃には、大人の()ほどの大きさになる。その後次第に小さくなる。	胸腺、()、リンパ節など
② ()型	()の発育・発達が著しい。()頃には約80%に達し、以後ゆっくり発育・発達する。	()、脊髄など
③ ()型	()に急速に発育・発達したあとに穏やかに増加する。()に再び発育・発達する。	()、筋肉、()など
④ ()型	非常にゆっくりと発育・発達するが()になると急速に発育・発達する。	()、()など

上の表でまとめたように、それぞれの器官が発育・発達する時期には**特徴**があります。一般型である骨、筋肉、心臓、肺、胃腸、肝臓などの大部分の器官は、大人になるまでに急速に発育する時期が2度あります。この時期のことを () といいます。1度目は () の頃、2度目は () の頃です。骨や筋肉の発育に伴い、急速に身長が伸びたり、体重が増えたりします。

しかし

身長伸び方には個人差がありますよね？(もう成長期が来てぐーんと背が伸びた人もいれば、まだの人もいますし、全員が180cmまで伸びるわけではありませんね。このように、それぞれの器官の発育・発達の時期や程度には () があることを忘れずに!!!